No.

Date

9.3 　　　　　　　　　　　　　　　　20D4104016H　森 智紀

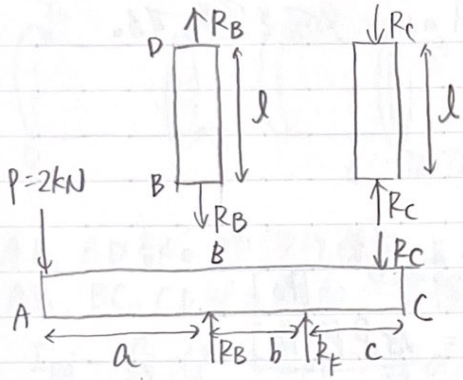


図1. FBD

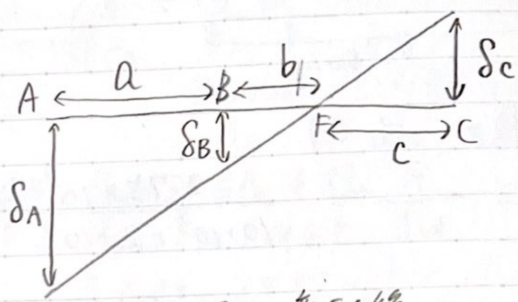


図2. 変形後

力のつりあいより

$R_B + R_F = P + R_C \Rightarrow R_F = R_C - R_B + P$ …①

棒ACのモーメントのつりあいから

$-R_F c - R_B(b+c) + P(a+b+c) = 0$ …②

①②より

$-(R_C - R_B + P)c - R_B(b+c) + P(a+b+c) = 0$

$\Leftrightarrow P(a+b) = R_B b + R_C c$ …③

図2より

$\frac{\delta_B}{\delta_C} = \frac{b}{c}$ であり $\delta_B = \frac{R_B l}{AE}$, $\delta_C = \frac{R_C l}{AE}$ なので　(A,は断面積 Eはヤング率

$R_B c = R_C b$

この式と③より

$R_B\left(b + \frac{c^2}{b}\right) = P(a+b) \Leftrightarrow R_B = \frac{Pb(a+b)}{b^2+c^2}$

さらに図2から

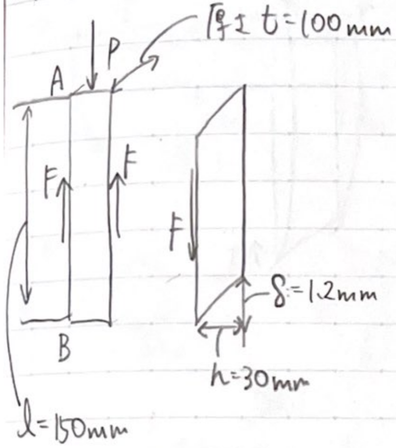
$\frac{\delta_A}{\delta_B} = \frac{a+b}{b}$ なので $\delta_A = \frac{a+b}{b}\cdot\frac{R_B l}{AE}$

$\therefore \delta_A = \frac{a+b}{b}\cdot\frac{l}{AE}\cdot\frac{Pb(a+b)}{b^2+c^2}$

$= \frac{Pl(a+b)^2}{AE(b^2+c^2)}$

$= \frac{2\times10^3\times0.225\times(0.625)^2}{800\times10^{-6}\times100\times10^9((75\times10^{-3})^2+0.1^2)}$　1.406×10^{-4}　　$\therefore \delta_A = 0.141$ mm

9.4　　　　　　　　　　　　20D8104016H 森 智紀



左図のように文字を定義する。
F はせん断力である。
力のつりあいから

$P=2F$

$\Leftrightarrow F=\frac{P}{2}$

ゴムの部分の面積は lt と書ける。
ゴムにかかるせん断応力 τ は

$$\tau=\frac{F}{tl}$$

$$=\frac{P}{2tl}$$ である。

フックの法則より せん断弾性係数を G, ひずみを γ とすると
$\tau=G\gamma$ となる。図より

$$\gamma=\frac{\delta}{h}$$ であるから

$$G=\frac{\tau}{\gamma}$$

$$=\frac{h}{\delta}\frac{P}{2tl}$$

$$=\frac{0.03\times20\times10^3}{2\times0.1\times0.15\times1.2\times10^{-3}}=16.67\times10^6\ [\mathrm{Pa}]$$

$\therefore G=16.7$ [MPa]

No.

Date

9.5 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　20D41040164 森 智紀

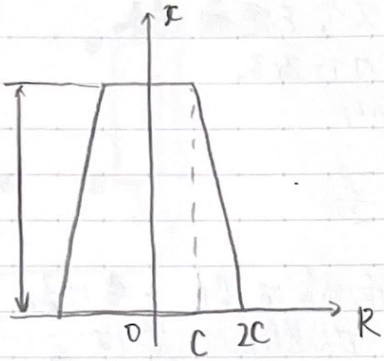


図1

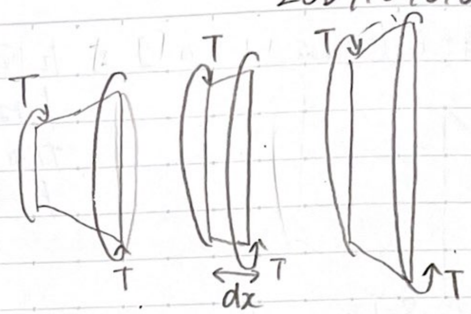


図2

(1) 図1のような座標を考えると

$$R = -\frac{C}{L}x + 2C$$

と表せる。ここで断面二次極モーメント I_p は

$$I_p = \frac{\pi}{2}R^4$$

と表せる。位置 x でのせん断応力 τ は

$$\tau = \frac{T}{I_p}r = \frac{2T}{\pi R^4}\times r$$

と表せるので R が最小かつ r が最大のときに τ は最大値をとる。

R, r の最大値 R_{max}, r_{max} は $R_{max} = 2C$, $r_{max} = 2C$

$$\therefore \tau_{max} = \frac{T}{4\pi C^3}$$

(2) 図2のような微小部分 dx を考える。ここでのねじれ角 $d\phi$ は

$$d\phi = \frac{T\,dx}{GI_p} = \frac{T}{G}\frac{2}{\pi}\left(\frac{L}{-Cx+2CL}\right)^4 dx$$

これを0から L まで積分したものがAでのねじれ角である。

$$\phi = \frac{2TL^4}{G\pi C^4}\int_0^L \left(\frac{1}{x-2L}\right)^4 dx$$

$$= \frac{2TL^4}{G\pi C^4}\left[-\frac{1}{3}(x-2L)^{-3}\right]_0^L$$

$$= \frac{2TL^4}{G\pi C^4}\cdot\frac{7}{24L^3}$$

$$\therefore \phi = \frac{7TL}{12G\pi C^4}$$

No.

Date

9.7　　　　　　　　　　20041040161　森 智紀

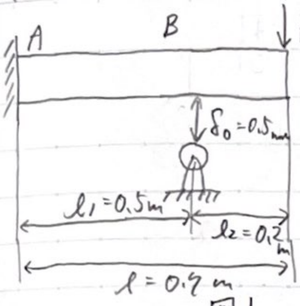


図1

左図のように文字を定義し、点Cの必要な変形量を $\delta_C=0.8_{mm}$ とする。断面2次モーメントをIとすると $I=\frac{1}{12}0.06^4=1.08\times10^{-6}$ である。まず点Bが δ_0 変位する時に必要な力 P_1 を求め、点Cが δ_C 変位するのにさらに必要な力を出す。まず P_1 を求める。たわみ角とたわみの一般式を用いる。

$$\delta_0=\frac{P_1 l}{6EI}\left(3-\frac{l_1}{l}\right)l_1^2 \longrightarrow P_1=\frac{6EI\delta_0}{l_1^2}\cdot\frac{1}{3l-l_1}$$

荷重 P_1 がかかったときの点Cの変位 δ_{C1} は

$$\delta_{C1}=\frac{P_1 l^3}{3EI}=\frac{2\delta_0 l^3}{l_1^2(3l-l_1)}$$ である。

荷重 P_1 がかかったときの点Bでのたわみ角 θ_B は

$$\theta_B=\frac{P_1 l_1}{2EI}\left(2-\frac{l_1}{l}\right)l_1=\frac{3\delta_0(2l-l_1)}{l(3l-l_1)}$$

図2

次に左図のように点Bを壁であると考える。点Bのたわみが δ_0 で、Bに対するCのたわみが0であると考えたのが図2である。このときAに対してCのたわみは $\delta_{CB}=\theta_B l_2$ である。

よってAに対してCが δ_{C1} たわんだときCはBに対して $\delta_{C1}-\delta_{CB}$ だけたわんでいる。棒BCを単純支持はりと考え、Cが $\delta_{C1}-\delta_{CB}$ 変形するのに必要な力を P_2 とする。

$$\delta_{C1}-\delta_{CB}=\frac{P_2 l_2^3}{3EI} \Rightarrow \frac{2\delta_0 l_3}{l_1^2(3l-l_1)}-\frac{3\delta_0 l_2(2l-l_1)}{l(3l-l_1)}=\frac{P_2 l_2^3}{3EI} \Rightarrow P_2=\frac{3EI}{l_2^3}\frac{2\delta_0 l^4-3\delta_0 l_1^2 l_2(2l-l_1)}{l_1 l(3l-l_1)}$$

同様に図2の状態から点Cの必要なたわみ δ_C だけ変形させるのに必要な力を P_3 とおく。

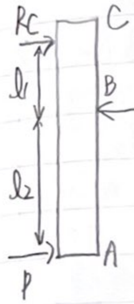
$$\delta_C-\delta_{CB}=\frac{P_3 l_2^3}{3EI} \Rightarrow \delta_C-\frac{3\delta_0 l_2(2l-l_1)}{l(3l-l_1)}=\frac{P_3 l_2^3}{3EI} \Rightarrow P_3=\frac{3EI}{l_2^3}\left(\delta_C-\frac{3\delta_0 l_2(2l-l_1)}{l(3l-l_1)}\right)$$

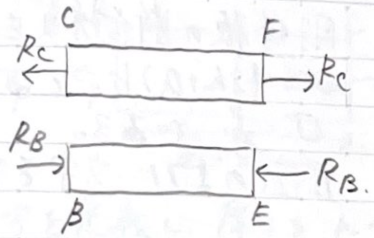
よって P_1 に加えて必要な力は P_3-P_2 である。求める力Pは

$$P=P_1+(P_3-P_2)$$
$$=\frac{6EI\delta_0}{l_1^2(3l-l_1)}+\frac{3EI}{l_2^3}\left(\delta_C-\frac{3\delta_0 l_2(2l-l_1)}{l(3l-l_1)}\right)-\frac{3EI}{l_2^3}\left(\frac{2\delta_0 l^4-3\delta_0 l_1^2 l_2(2l-l_1)}{l_1 l(3l-l_1)}\right)$$
$$=21.93\times10^3$$

$$\therefore P=21.9\ \underline{kN}$$

9.8　　20D4104016H　森 智紀





左図のように文字を定義する。
$P = 18$ kN である。
棒ACの力のつりあいから
$R_C + P = R_B$ …①
モーメントのつりあいから
$P(l_1+l_2) = R_B l_1$ …②

①②より

$$R_B = P\frac{l_1+l_2}{l_1}, \quad R_C = P\frac{l_2}{l_1}$$

・BEの変位を λ_{BE} とすると 断面積を $A = 60\times15\times10^{-6} = 9\times10^{-4}$ m^2

$$\lambda_{BE} = \frac{R_B l}{AE} = \frac{P(l_1+l_2)l}{l_1 AE} = \frac{18\times10^3\times0.44\times0.24}{0.18\times9\times10^{-4}\times200\times10^9} = 5.866\times10^{-5}\ \mathrm{m}$$

応力 σ_{BE} は

$$\sigma_{BE} = \frac{R_B}{A} = \frac{P(l_1+l_2)}{l_1 A} = \frac{18\times10^3\times0.44}{0.18\times9\times10^{-4}} = 48.88\times10^6\ [\mathrm{Pa}]$$

・CFの変位を λ_{CF} とすると

$$\lambda_{CF} = \frac{R_C l}{AE} = \frac{P l_2 l}{l_1 AE} = \frac{18\times10^3\times0.26\times0.24}{0.18\times9\times10^{-4}\times200\times10^9} = 3.467\times10^{-5}$$

応力 σ_{CF} は

$$\sigma_{CF} = \frac{R_C}{A} = \frac{P l_2}{l_1 A} = \frac{18\times10^3\times0.26}{0.18\times9\times10^{-4}} = 28.89\times10^6\ [\mathrm{Pa}]$$

$\lambda_{BE} = 5.87\times10^{-2}$ mm の縮み, $\lambda_{CF} = 0.0347$ mm の伸び

$\sigma_{BE} = 48.9$ MPa の圧縮, $\sigma_{CF} = 28.9$ MPa の引張り //